

5. 子育て支援と母子保健の連携の強化

【市民意向調査等からみた現状と課題】

- 母子保健にかかわる子育て不安や悩み …………… p.47

【取組の方向性】

- 相談窓口の一元化 …………… p.48

【市民意向調査等からみた現状と課題】

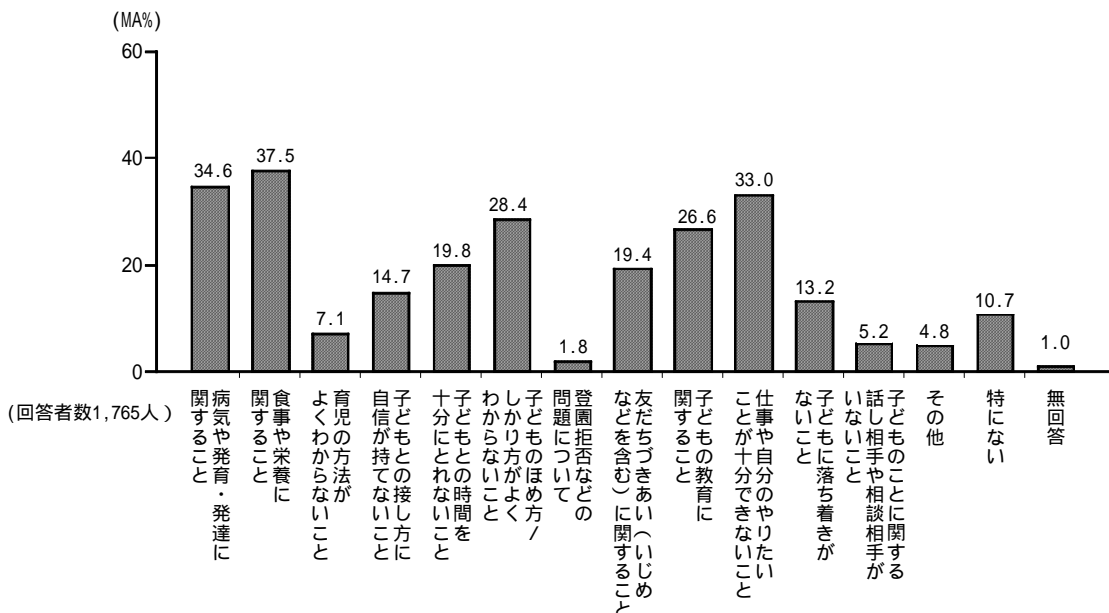
母子保健にかかわる子育て不安や悩み

市民意向調査で「子育ての悩みや気になること」を尋ねたところ、悩みとして挙げる内容は多岐にわたっていますが、就学前児童を持つ保護者では「食事や栄養に関すること」や「病気や発育・発達に関すること」など母子保健にかかわる事項が悩みの原因として多く挙げられています(図表 43 及び図表 44)。

市民意向調査の結果でもわかるように、子育てにかかわる不安や悩みは多岐にわたり、複合的なものである場合が少なくありません。母子保健にかかわる問題と子育ての負担や不安の問題とを合わせて相談を受け、サービスを調整する機能が求められます。

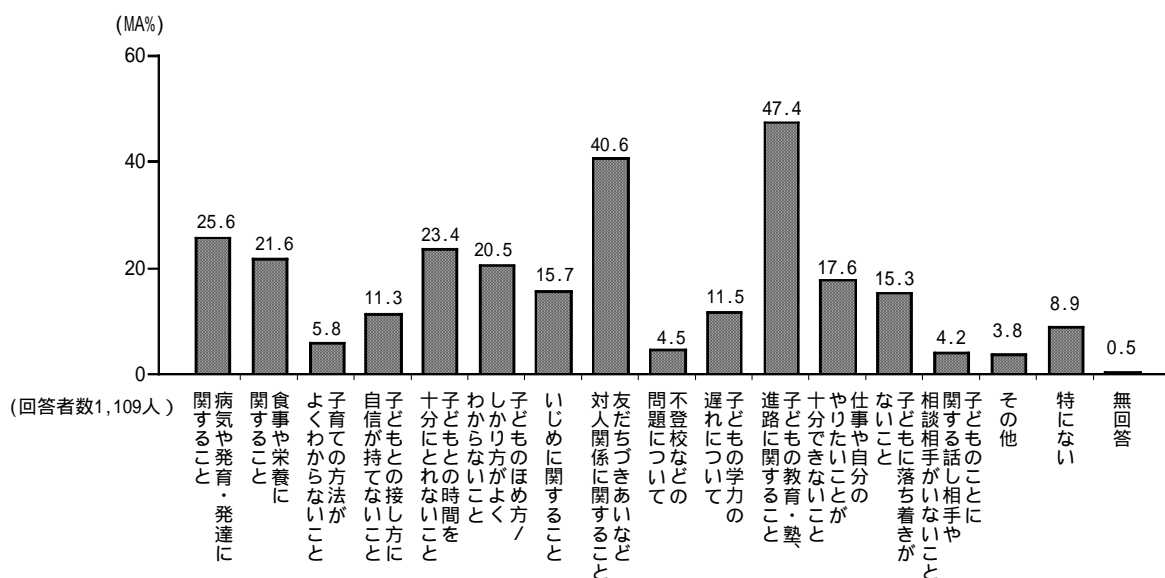
しかし、現状では保育所入所申請や一般的な子育て不安や虐待等の相談は子育て支援本部、子どもの発育や健康に関する相談は市民医療センターと、窓口が分かれていて、利用者からは使い勝手が悪いものとなっています。

図表 43 子育てについて悩んでいること、気になること(就学前児童)



注. MA%: 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合

図表 44 子育てについて悩んでいること、気になること(小学生)



注. MA%: 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合

【取組の方向性】

相談窓口の一元化

例えば、様々な相談の窓口を、子育て支援本部で一元化することはできないか検討すべきであると考えます。それが無理であれば、児童福祉と母子保健のそれぞれの担当(例えば保育士と保健師)を相談窓口併置するなど、何らかの形で子育て支援と母子保健の連携を密とした体制づくりを検討すべきであると考えます。

参考意見

(A 委員)

母子保健のマンパワーを拡充(退職保健師・看護師などを活用・養成し、将来文化センターの管轄区域ごとの子育て相談体制に保健師・看護師を組み込む)。
府中市本庁の子育て支援担当課と母子保健担当課の連携を密にする方策を講じる。

(I 委員)

病人等を抱える子育て家庭に協働して対応する。
母子保健の担当者と連携して家庭訪問等を行う。